

平成 26 年度 建築設備技術遺産を認定

本協会、一般社団法人 建築設備技術者協会では、建築設備部門の技術および設備関連情報とそれらを建物に収めてきた技術を次世代に伝えるとともに、建築設備の「技術」、「役割」「文化」を多くの方々に広めていく目的で、建築設備における空調、衛生、電気、搬送の4領域に関する技術と技術者の歴史的な足跡を示す事物・資料であり、建築設備技術の進歩、発展において重要な成果を示したものの、また、生活、経済、社会、地球環境、技術教育に貢献した、または当時を反映する建築設備技術を「建築設備技術遺産」として認定する制度を一昨年度創設し昨年度までに 10 件を認定した。

本年度は、前年度に引き続き、ほぼ同じ公募期間を設定し、応募された物件を、建築設備技術遺産認定委員会において、前年度とほぼ同じ評価項目で評価することとした。

残念なことに、応募物件数は過去最低となったが、貴重な技術遺産の応募が多かったこと、各種情報収集の結果、昨年度応募で認定されなかったものの中に、認定に値すると判断されるにいたった物件が出てきたことから、昨年度申請のもの 3 件(認定第 11 号～第 13 号)、本年度申請のものから 4 件(認定第 14 号～第 17 号)の計 7 件を認定することとなった。また、建築「設備」技術遺産ということから、「設備」面を重視すると認定するには多少違和感を覚えるといった意見があったものの、建築環境の面から日本の住宅のあり方を追求した研究者の自邸を特別認定とさせていただくこととした。

認定第 11 号 平川ボイラ便覧

認定第 12 号 現存する最古のガス吸収冷暖房機

認定第 13 号 空気絶縁型バスダクトの絶縁ホルダー

認定第 14 号 TOTO 歴史資料館所蔵の各種湯水混合水栓

認定第 15 号 高砂荏原式ターボ冷凍機 (国産第一号ターボ冷凍機)

**認定第 16 号 UR 集合住宅歴史館の住宅設備技術遺産
および公団設置第 1 号昇降機**

認定第 17 号 天然ガス利用第 1 号ガスコージェネレーションシステム

特別認定 藤井厚二「聴竹居 (自邸)」の建築環境設備技術